

映像授業の落とし穴

2024.3.24(日)

フロローク

「映像授業を受けているのですが、成績が上がらなくて…」という相談をよく受けます。こんななか、YouTubeを見ていると、同じようことを話している人達がおりましたので、その話の内容を文字に起こしてみました。(元予備校講師とあるチェーン塾の経営者です。)

寝てない？スマホいじっていない？

まず、「映像授業に適している人」ということで、予備校で講師をされていた人が、一言で言い切ります。

「授業に集中できる人だけです。」

部活をやった後で塾へいき、映像授業を受けます。

疲れています。

しかも、目の前に先生がいるわけではありません。

つつい、”うとうと”してしまいます。寝てしまうこともあります。

Lineが来れば、もちろん見ます。

そのままスマホをいじっているうちに授業はどんどん先へ進んでしまいます。

1.5倍速で見ていると、あっというまに授業は先へ進んでしまいます。

映像授業は画期的なのですが…

すばらしい先生の授業を、全国のどこにいても受講することができる。

これは映像授業だからできる画期的なことです。

予備校の生授業だと、週1回しかないのだから、授業の進み方が遅い。

それに対して、映像授業なら、自分のペースでどんどん先へ進んでいける。

だから、速く学習を終えることができる。

これも、いままでのリアル授業では考えられない画期的なことです。

ただ、画期的ではあるのですが、映像授業で効果的なのは、授業に集中する意志がある人だけです。寝ていたり、スマホをいじっていては、画期的であってもなくても関係ありません。

アウトプット学習(復習)ができていない

「講座」をとりすぎていて、

「講座」を受講するだけに時間をとられ、その授業の復習・暗記・演習に割く時間がとれない人というのがけっこうおられます。

そういう人は、あれも必要、これも必要とばかり、毎日映像授業を受けなければならないはめに

陥り、ただ、ただ映像を”見る”だけ、スケジュールを”消化する”だけになってしまっています。講座を取り過ぎると毎日受講しないと、終わりません。毎日塾へ行って急いで消化して、すぐ次の講座を受講して…の繰り返しで、とても、復習して授業の内容を習得することなどできません。

アドバイザーからは、速くいこう、次、次。高速学習だ、どんどん終わらせよう、「〇〇までにこの講座を終わらせてね。」という指導が主で、復習の指導はあまりありません。

映像を見るのが目標になってしまっています。

できるようになることが本来の目標なのですが、授業を受けることが目標になっています。

その場では、めっちゃよく理解できるのが危険！

映像授業の講師はトップレベルの予備校講師です。

だから、とにかく、教え方がうまい！

話を聞いただけで、その瞬間にすべて理解した気分となり、復習などしなくとももうすべてわかるわ、という感覚にさせられます。

だから、よし、この講座は分かった、次の講座へ進もう、ということになります。

よくわかるから、次の講座も見たい、その次の講座も、次の講座も早く見たい、となります。

復習など意識しないで先へ進むことだけが楽しみになります

もちろん、講師の先生は「練習して、できるようになることが大切です。」とは映像の中では言いますが…。

受講している生徒の側からすれば、よくわかるから復習などしなくてもいいわ！です。

その授業についてのアウトプット学習（習ったことを使って問題を解いてみる）など、さらさらやろうとは思いません。

数値的にいうと、映像授業を受けている人が100人いたら、90%の人が復習が足りていないといえるそうです。また、ほとんど復習していない人は50%くらいはいるということです。

理解しているかどうかのテストはあるが、簡単なので、だれにでも解けるから、改めて復習が必要だとは思わないということです。

授業を受けたあとにパソコンで解く問題です。（元予備校講師の話です。）

自分で解けるようになることが必要

以上のように、この映像授業のシステムでは、復習することはかなり難しいようです。

しかし、

(1) 集中する意志を強くして

(2) 復習をきちんとする（自分の力だけで解けるようにする）。あるいは、ほかの人に分かるように教えてあげられるくらいまで練習する

と、映像授業でも効果を出しているそうで、100人いたら大体2割程度いるということです。

「映像」である必要性はあるの？

もし、映像授業と同じくらいに分かるペーパー教材があれば、なにも高いお金を払って映像授業を受ける必要はないのではないかと思えます。

何しろ、ある映像授業では、1講座75000円だそうですから…。

20回ほどの授業と言っておりました。そう安い買い物ではありません。

どんどん講座を取っていくと、+75000円、+75000円、…と、保護者の方のほうが真っ青になっております。子どもがやる気満々だから、痛し痒し…なのです。

これまで紹介したように、映像授業の危険性は、復習することが難しい、ということです。

学んだことを使い、自分の力だけで解けるように練習することが困難なのです。

このために受講しても学習効果が出ません。ただ、映像を見ているだけになっています。

では、復習つまりアウトプットする問題がシステムとして組み込まれているペーパー教材があったらどうでしょうか。

しかも、1問1問、自分で解いて、解けるようにしてから先へ進むという学習システムになっていたら…。もちろん、“解ける”かどうかは、指導する先生が判定します。生徒本人の主観的な評価ではありません。これで、月13000円だったら。

アウトプット学習を徹底するシステム

たとえば、数専ゼミの指導システムですが…

数学Ⅱ「整数の乗法・除法と分数式」という単元で「二項定理」を学習します。

二項定理は、けっこう難しく、苦手としている人が多い単元です。一番質問の多い単元です。

この二項定理を学習する数専ゼミの学習計画を紹介します。

§ 4 二項定理

学習内容

プリント

学習目標

No. | ページ | 問題 |

(1) 二項定理① 展開式	1 3 (1 / 4) 知識	問題を解くときに使う言葉や定理
	(2 / 4) 解法	問題の解き方の説明(例題)
	CH	解法の解き方で解けるか点検する問題
	(3 / 4) 【1】	解法を応用しながら練習する問題
	(4 / 4) 【2】	解法を応用しながら練習する問題
	* 知識, 解法が映像授業の先生の講義の部分です。 非常に説明が詳しいです。わからない部分は質問すれば、先生が直ちに教えます。	
	* CH, 【1】, 【2】がアウトプットの学習部分です。	
(2) 二項定理② 二項定理と係数決定	1 4 (1 / 4) 解法	
	(2 / 4) CH	
	(3 / 4) 【1】	
	(4 / 4) 【2】	
(3) 二項定理の応用① 多項定理と係数決定	1 5 (1 / 7) 解法	
	(2 / 7) CH	
	(3 / 7) 【1】	
	(4 / 7) 【2】	
	(5 / 7) 【3】	
定数項	1 5 (6 / 7) 解法	
		【4】

(7/7) 【5】

発展__ 15s (1/1) 【1】 入試レベルの問題

- (4) 二項定理の応用② * 以下, 問題の構成は省略
等式の証明 詳細は, → [トップページ](#) → 高校数学・学習NENU
- (5) 二項定理の応用③ → 数学Ⅱ・整式の乗法・除法と… [記録]
nで割ったときの余りと ご覧になれます。
二項定理

新しいことを学んだら, 徹底してアウトプット学習をするシステム構成になっていることが見て取れると思います。

このようなシステムがあれば, 高いお金をだして, 危険な映像授業など受講する必要性はないと思えますが, どうでしょうか。

学んだことは徹底してアウトプットする数学教室

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: (023)633-1086 / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp